

巻頭言 経営情報学部開設25周年記念号に寄せて

経営情報学部長 兼

経営情報学研究科長

小 野 桂之介

1984年（昭和59年）に中部大学経営情報学部が生まれて四半世紀が経ちました。同時に開設された国際関係学部と共に、それまでの中部工業大学が中部大学に生まれかわる礎となった当学部は、日本で「経営情報学」という教育・研究分野を示した魁的存在であり、爾来この新らしい領域の発展に重要な役割を果たしてきました。

開設当初経営情報学科のみでスタートした当学部の教育コンセプトは、経営・情報・会計を中核に据え、それを経済・法律という主要経営環境分野で包むというものであり、ここで学ぶ学生たちは、これら5つの専門分野の基礎を習得した上でそれぞれの関心と必要性に合わせてさらなる専門性の強化を図るよう指導されました。

その後十数年の教育経験を積む間に、年によって300人を超すようになった学生たちを「情報」に重点を置いて学ぶグループと「経営」に重点を置いて学ぶグループに分けて教育課程（カリキュラム）を設計する方が効果的であるという判断が生まれ、2002年（平成14年）に経営学科が新設され2学科体制に移行しました。そして、今日、もう一つの中核分野「会計」に重点を置く新学科を開設する準備を進めているところです。

このように経営情報学部の教育組織体制は分化しながら発展してきましたが、いずれの学科においても、（重点の置き方は異なるものの）上に記した5つの専門分野を全て学ぶという基本コンセプトは変わっていません。この間、1996年（平成8年）には大学院経営情報学研究科も設けられました。（現在の研究科編成は、経営情報学専攻前期・後期課程および経営学専攻修士課程。）こうした学部・大学院教育を実現すると共に、社会に有用な考え方と知識を生む研究活動に取り組む教員組織も当初の25人から34人へと増強され、今日に至っています。

学部開設25周年を記念する本号には、上記の各専門分野から多数の専任教員が寄稿しているほか、鎌田信夫前学部長、学部教育にご協力いただいている鷺津泉講師からも寄稿していただき、当学部の幅広い教育・研究領域を示す多彩なテーマで興味深い議論と情報を提供しています。こうした多彩な知的資産が今後さらに活発な融合反応を展開し、そこから生み出される教育・研究エネルギーが当学部の一層の発展を促すことを祈念します。